

# 平成26年度宮古群島病害虫発生予報第7号(10月予報)

## I 10月の気象予報

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	70	40	20
平 年 並	20	40	40
低い(少ない)	10	20	40

(平成26年9月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

### 平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	25.4	27.8	23.6	156.2	153.8

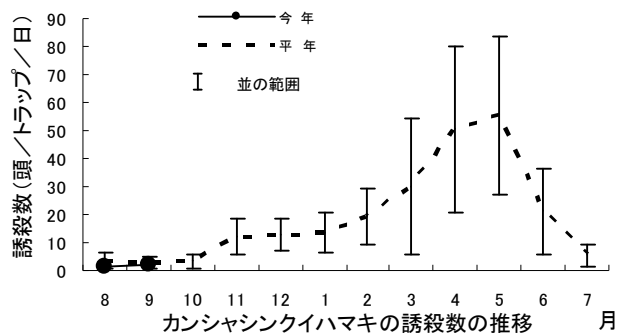
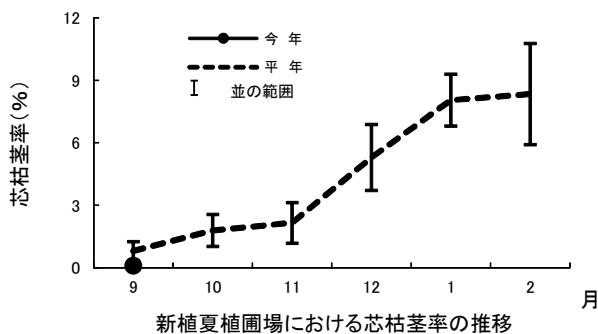
(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 10月の発生予報および防除上の注意事項

### 1 さとうきび

#### ○ カンシャシクイハマキの防除対策

- a 9月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯率は0.1%(前年0.1%、平年0.7%)と平年よりやや低かった。
- b 9月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.6頭(前年1.8頭、平年2.7頭)と平年よりやや少なかった。

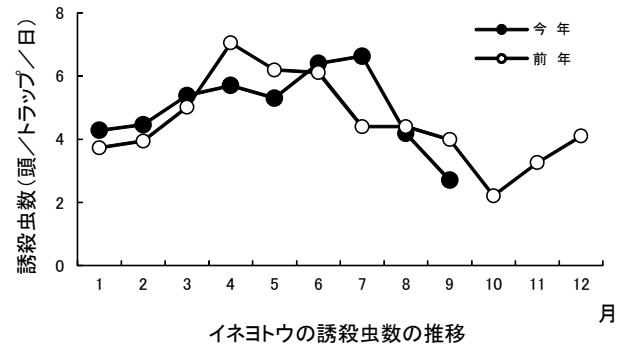
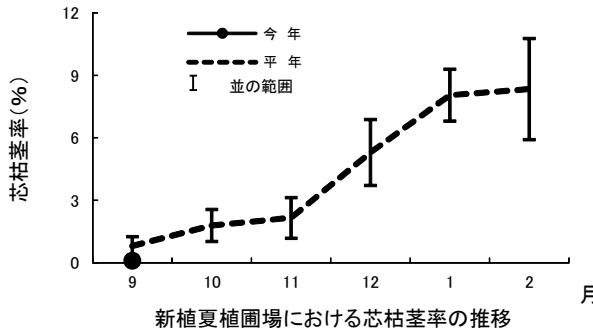


#### <防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- e 植付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- f 平成24年度病害虫発生予察技術情報第3号参照(平成24年6月11日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 9月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.1%(前年0.1%、平年0.7%)と平年よりやや低かった。
- b 9月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.7頭(前年4.0頭)であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号参照(平成24年9月21日付)。

○ バッタ・イナゴ類の防除対策

- a 一部圃場および隣接草地で発生し、食害が観察された。
- b 発生源となる圃場および周辺の除草を徹底する。
- c 被害を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- d 平成26年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成26年5月30日付)参照。

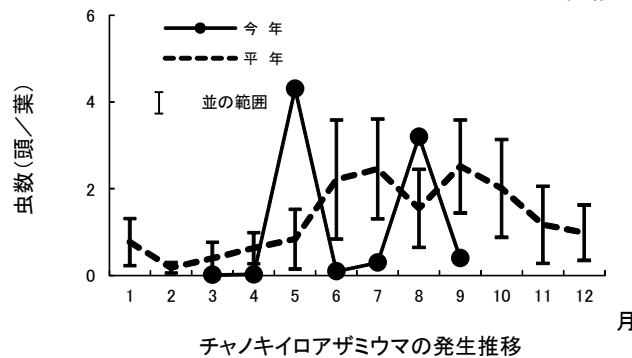
○ 野その防除対策

- a 9月中旬の調査の結果、被害茎率は0.4%(前年0.3%、平年0.3%)と平年並であった。
- b 管理されない耕地などで繁殖するので、圃場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- c 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- d 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

## 2 マンゴー

○ チャノキイロアザミウマの防除対策

9月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.4頭(前年0.2頭、平年2.3頭)と平年よりやや少なかった。



<防除上注意すべき事項>

- a 収穫期に発生が多かった施設では薬剤による防除に努める。
- b 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。